

日本の顔となるブランド観光圏～ハケ岳の魅力を磨きあげています！～



八ヶ岳観光圏

1,000mの天空リゾート ハケ岳

～澄み切った自分に還る場所～

「住んでよし、訪れてよし」の観光地域づくりを目指しています

八ヶ岳観光圏の特徴は、八ヶ岳の裾野、標高400mから1400mの標高差1000mに緩やかに広がり、山岳高原地帯に生活圏が形成されている立体空間です。この山岳高原の環境はここにしかない風土を育み、この土地での滞在は、リセット(Reset)、リフレッシュ(Refresh)、リボーン(Re・born)できる場所となることから「1000mの天空リゾート八ヶ岳～澄み切った自分に還る場所」をコンセプトとしています。

『観光圏の整備による観光旅客の来訪及び滞在に関する法律』に基づくブランド観光圏として、地域の関係者が連携し、地域の幅広い資源を活用し地域の魅力を高めることにより、国内外から観光客が滞在交流型観光を行うことができる観光圏の形成を促進しています。



入笠エリアの整備

入笠湿原に環境を保全し、観光客が安全に通行できるよう遊歩道として階段を設置。H28年度には、湿原内の遊歩道整備を完了する予定です。

八ヶ岳エリアの整備

遊覧カート等で登ることができる創造の森は、受入環境整備により、誰でもが利用できるユニバーサル・フィールドとして整備を進めています。

平成27年度 ハケ岳観光圏 観光地域ブランド確立支援事業

平成25年4月新基本方針観光圏として認定されたハケ岳観光圏は、認定年度より観光庁からブランド確立支援事業の支援を受け、補助金40%を活用した事業の取組みにより観光資源を活かしたブランド観光地域の確立に向け取り組んでいます。

○ブランド確立支援事業の取組み 合計49事業、総事業費72,879,284円 の事業を実施しました。

共同実施26事業 8,873,692円

市町村単独10事業 36,347,180円 (内、富士見町単独分3事業 18,571,680円)

実行委員会等民間主体13事業 27,658,412円

個別事業の内訳

【滞在プログラム】8事業 1,199,868円

トレッキングやサイクリング、スノーシュー、乗馬体験など、ハケ岳ならではの体験プログラムを提供

【滞在地区魅力向上事業】16事業 36,061,462円

リゾートバス実証実験、天空博覧会・ユニバーサルフェス・星まつり・寒いほどお得フェアなどのイベント開催、ペット同伴受入環境整備、地域情報誌などのPRパンフレットなどの作成

【滞在地区魅力向上事業】19事業 9,313,662円

観光圏シンポジウム、地域づくりワークショップ、ホームページ多言語化、インバウンド誘客事業の実施

【その他のブランド確立事業】5事業 26,304,292円 (内、富士見町負担事業 3事業 18,571,680円)

各市町村が単独で受入環境整備として行う事業

○富士見町エリアの事業の内訳

富士見町事業 【創造の森】 12,091,680円 テーブルベンチ整備、案内看板（和英標記）整備、花木植栽
【入笠湿原】 6,480,000円 遊歩道整備（階段120m）

鉢巻周遊リゾートバス実行委員会事業 【鉢巻リゾートバス運行】 2,408,000円

富士見パノラマリゾート事業 【入笠すずらん山野草公園 山野草植栽】 2,736,612円

富士見高原リゾート事業 【ユニバーサル・フェス開催】 4,000,000円

八ヶ岳観光圏は、八ヶ岳南麓エリアに位置する山梨県北杜市と富士見町、原村で構成しており、平成25年に改正された観光整備法の新基本方針に全国で僅か6地域のみ採択された観光圏です。（平成27年度より13地域）

3市町村と民間で構成するプラットフォーム「(一社)八ヶ岳ツーリズムマネジメント」では、自治体の垣根を越え、共有する豊かな地域資源を更に観光資源として磨き上げることにより、滞在交流型観光地として国内外から観光客を誘客する事業に取り組んでいます。

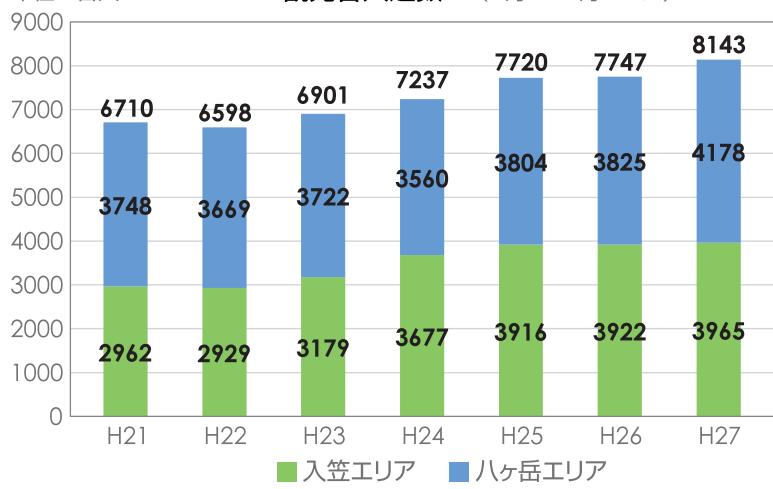
3市町村で構成されている八ヶ岳観光圏エリア

面積：北杜市 602.89km² 富士見町 144.76km²
原村 43.16km²



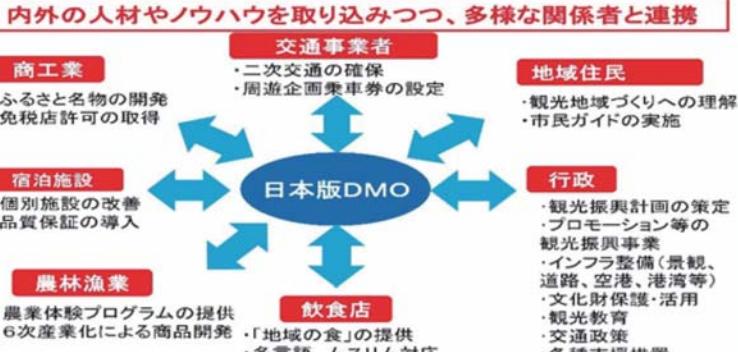
単位：百人

観光客入込数 (1月～12月ベース)



八ヶ岳観光圏の日本版DMO構築

多様な関係者との連携



地域一体の魅力的な観光地域づくり
戦略に基づく一元的な情報発信・プロモーション

観光客の呼び込み

観光による地方創生

八ヶ岳エリアの観光資源の特徴

- 八ヶ岳の主峰赤岳・権現岳等鋭く切立つ峰々の南麓、東西31km、南北約41kmの裾野が広がる山岳・高原リゾートエリア
- 八ヶ岳南麓の豊かな自然環境と、八ヶ岳や南アルプスの眺望、富士山が遠望できる優れた景観を有しているエリア
- 標高約1000mに位置し、約30分での標高差を移動できる“標高差1000mの立体空間”エリア
- 晴天率80%長い日照時間、冷涼な夏季を利用した農産物の生産エリア
- 縄文中期・約5,000年前に縄文文化が繁栄したエリア（縄文時代から現在まで「住んでよし」を実証しているエリア）

外国人受入環境整備

日本政府観光局（JNTO）が公表している平成27年1月～12月の訪日外国人数は、19,737,409人で前年比47.1%増と大きく伸びています。この大きなマーケットに対して、これから観光事業では、外国人を受け入れるための施設整備やホスピタリティが課題となります。

町では、平成27年度事業で希望する宿泊施設が行う無線LAN環境整備事業に補助を行いました。

町内宿泊施設の外国人宿泊者数

平成27年度 732人（前年320人）

観光客数としては僅かですが、需要は大きくなっています。

八ヶ岳観光圏の観光地域づくりプラットフォームである「(一社)八ヶ岳ツーリズムマネジメント」は日本版DMO候補法人の登録申請を行いました。

日本版DMOは、地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、観光地域づくりによる地方創生を実現するための調整機能を備えた法人です。

日本版DMOの役割は、(1)多様な関係者の合意形成、(2)各種データ等の収集・分析、データに基づく明確なコンセプトに基づいた戦略の策定、KPIの設定・PDCAサイクルの確立、(3)関係者が実施する観光関連事業と戦略の整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーションです。

日本版DMOの登録により、関係省庁から支援を受けられるメリットがあります。